

YELL ～エール～

前期末を迎えて

去る9月22日(木)の5,6時間目、総学の時間に13の分野に分かれて「上級学校授業」が行われました。これは伊丹北高校の総学で毎年行われている取組みのひとつです。高校卒業後、皆さんが進んでいく上級学校ではどんな雰囲気、どんなことを学んでいるのか。勿論大学生に教えるのと全く同じ内容ではありませんが、それを教えておられる先生方に多数、本校までお越し願ひ高校生向けにアレンジした講義を皆さんに提供していただいたわけです。



中には諸君の授業に取り組むまなざし、整えられた校舎、気持ちよく気持ちのこもった挨拶をしてくれる北高生に「感動しました」とまでおっしゃっていただき、わざわざお手紙を送って下さった先生もいらっしゃいました。



中学と高校の違いとは何か。それは高校という所は義務教育ではなく、自ら望んで学習に取り組みたい者が来る所です。では高校と大学の違いは何か。ひとつの側面として、大学という所は単に勉強を習いに行く所ではなく、研究機関でもあり、自らの課題を見つけ研究に取り組む所だと思います。だからこそ、自分の進みたい道へ進むべき所なのです。でなければ続きません。

今日は前期末終業式。今年度の前半が終わったのと同時に、11期生諸君にとっては3年間の伊丹北高校での学校生活が半分終わったことも意味します。これから残りの期間で高校生活に区切りをつけ、次のステップへ自ら歩みを進めていかなければなりません。あなたの人生に誰も口出しは出来ないのです。決めるのは主人公であるあなた方自身なのです。周りはアドバイスをしているに過ぎません。

残り1年半。今後の人生をどう生きていくのかも考えながら、自分の力を全力で発揮できる場所を見つけ、そのための自分磨きをしっかりしていきましょう。ちなみに10月3日は3年次の先輩方にとってセンター試験の出願日になります。1年後、皆さんも同じ状況になります。そのことも頭の片隅に留めておきましょう。

Way to “MALAYSIA” ～PART I～

日本の約9割の国土に人口約2700万人の人々が暮らしている多民族国家、それがマレーシアです。日本人の長期滞在人気ランキングで1位のマレーシア。その理由は治安が良く、物価が安いということが大きいようです。しかし多民族国家ゆえ、色々な国の人を受け入れる土壌が出来ているからということもあるでしょう。

国土の約7割が熱帯雨林という自然豊かな国でありながら、皆さんが訪れる首都クアラルンプールは、ペトロナスツインタワーに象徴される近代的ビルが立ち並ぶ大都市で、非常に活気にあふれた街です。「セントラル地区」「シティーセンター」「ブキッ・ビンタン」の3つに大別されるクアラルンプールにはLRT（ラピッドKL）といわれる高架電車やモノレールなどの交通網が張り巡らされています。今回の旅行でもクアラルンプール市内研修、B&Sプログラムなど、その町並みや異国の空気を肌で感じる機会が沢山あることでしょう。

また国立マラヤ大学AAJの学生さん達との交流会は、本校の修学旅行にしかない大きな柱です。AAJの学生さん達は日本への留学を志し、日々勉強に取り組んでいる熱心な方ばかりです。必ずや皆さんにも大いなる刺激となることでしょう。

そしてマレーシアで過ごす最終日にはマラッカを訪れます。植民地時代の色彩を色濃く残す町並みは、マレーシアの歴史を推し量るだけでなく異国における悠久の時の流れを感じることが出来るでしょう。



11期生 in summer PART V

Experiences at PRIC 2011

2年6組 西村 憲士

僕は茅野で特急列車から降りた時、ふと懐かしい感じがした。山々に囲まれた町に風の心地よさ、3年前と変わっていない風景。早めに着いたので周辺を散策した。3年前は緊張してどんな湖かわからなかった諏訪湖もとても綺麗に見えた。駅に戻る時は、緊張よりも期待の方が強く感じられ、「不安」という2文字はほとんどなかった。駅に着いたら、すでに他の日本人キャンパーがいて、様子を見てるとやはり、表情が硬かった。自分も前はこうだったのかなと思いながら日本人キャンパーが全員そろうのを待った。全員そろってバスの中で「バナナソング」など歌った。前は自分でも何を言っているのかわからないまま歌っていたが、今は楽しく歌えていることがはっきりとわかった。高遠青少年自然の家に着いた時、3年前の思い出が一気によみがえった。楽しかったこと、後悔したことなどモロモロ。「これからキャンプが始まるのだ」と思った。自己紹介が終わり、自分も他の日本人キャンパーもホッとしていた。今回の日本人キャンパーもやはりすごいと思った。毎年のように参加しているわ

けじゃないから、確実ではないけれどレベルが上がっていると感じた。英会話レベルの高い中学生達や、色々な特技をもつ高校生など個性的なキャンパーばかりだった。普段北高では、個性豊かな生徒を見ているがそれ以上だったかもしれない。「自分はそのまま、他のキャンパーに埋もれてしまい、キャンプが終わって数日くらいで忘れられてしまうのではないか」と少し不安に思ったが「自分なりに楽しんでいこう、3年前よりも」と思い、気を取り直した。

3年前の自分はキャンパーのなかでも一番年下で他の外国人キャンパーや日本人キャンパーと話すのに抵抗感があった。外国人キャンパーと話すのにもあまり長く会話が続き、よく他の日本人キャンパーに頼っていた。日本人キャンパーもほとんどが高校生で「敬語をしっかりと使って話さないといけない」という意識が強すぎて、自分が思っている以上に話ができなかった。日本文化しようかいでも「坊主めぐり」をしたが、説明が下手だったせいかうまく外国人キャンパーに伝わらなかつたりして他の日本人キャンパーに助けってもらうことがあった。その他同じグループのキャンパーの足を引っ張ってしまった。本当に自分は「とりあえず、ついていく」ことが多く、もしかしたら、本来楽しめるものも楽しめなかったのかもしれない。それらの失敗を繰り返さないようにキャンパー達とたくさん話せるように頑張った。

今回はキャンパー達と話をすることによって、交流を深めることができた。外国人キャンパー達とは自分の住んでいる街や文化について、彼らも同じように街や文化について話すことができた。自分の身の回りにある物を使って話すこともあった。例えば、TVを一緒に見ている、高校野球のニュースがやっていたら高校野球のことについて話をした。コミュニケーションの仕方は様々でジェスチャーを使ったりすることもあったがこんな風にとる方法があるのだと感じた。言葉の壁は決して簡単に乗り越えられないがコミュニケーションの仕方を工夫することによって少しでも楽に越えることができるのだと改めて思った。また日本人キャンパーとは方言など地域のことや普段の生活について話をして盛り上がった。時にはプチ県民ショー状態だった。

高校生になって参加することによって前より積極的に挑戦していくことができた。**Outdoor Cooking** では皿洗いなど手伝いを自分から進んでやっていき、手際よく料理していくことに役立てていった。**Orienteering** では自分が体験したことを話し、作戦をグループで練った。最後には1位をとることができ、僕も少しは役に立てたのではないかと思った。また **Camper's Fire** では2曲歌を歌った。音程がずれたり、歌詞を少し間違えたりしたが前とは違う達成感を得ることができ自分をアピールすることができた。歌を歌ったおかげであまり話すことのなかったキャンパーからも話しかけられとてもうれしかった。何でもやってみるものだと改めて思えた。

このキャンプに参加して僕は前のような後悔を残すことなく満足感に満たされていた。3年前とは違う充実感を得ることができた。11月にはマレーシアへ行くがこのキャンプで得た経験を生かして今後の授業に取り組んでいきたいと思った。

10月の予定

日	曜	行事(学校・生徒)	保護者関連	備考
1	土	創立記念日		
2	日			
3	月	生徒運営委員会		3年センター試験出願
4	火	体育大会準備 午前45分+午後50分授業 放課後準備		
5	水	体育大会予行		
6	木	体育大会	※食堂あり	
7	金	体育大会予備日	保護者全体会参加締め切り	
8	土	是非、応援・観覧にお出で下さい		
9	日			
10	月	体育の日		
11	火			教育相談
12	水			
13	木			
14	金			
15	土	学校説明会		
16	日	第2回2年次保護者全体会		第2回英検(1次)
17	月	↑ 10月考査 ↓		
18	火			
19	水			
20	木			
21	金			
22	土			
23	日			
24	月			
25	火			
26	水			
27	木			
28	金			
29	土			
30	日			
31	月	大緑化作業		